

## 【総合政策部長 答弁書】

平成 27 年門真市議会第3回定例会

質 問 者	戸田議員		
通告順位	17	項目番号	1-(2)、2-(1)(2)
件 名	<p>1 門真警察の仕事ぶり検証なしの「安全・安心の行政」について</p> <p>(2) 犯罪の抑止・検挙を職責とする警察への検証抜きで「啓発拝聴」一方の今までの「安全・安心行政」のあり方の改善について</p> <p>2 日本人みずからの戦争検証をも実行した「門真の偉人」幣原喜重郎の業績の啓発継承について</p> <p>(1) 憲法9条制定に尽力した幣原喜重郎が敗戦直後に戦争の検証委員会をもつかったことに最近照明が当てられたことについて</p> <p>(2) 幣原喜重郎の業績の啓発継承が市民に誇りを生み、門真市の品格と魅力向上にも寄与することへの認識や取り組みについて</p>		
起 案 者	総合政策部 企画課  橋本 卓巳  内線 2120		

戸田議員御質問のうち、一部につきまして、私より御答弁申し上げます。

まず、門真警察の仕事ぶり検証なしの「安全・安心の行政」についてのうち、犯罪の抑止・検挙を職責とする警察への検証抜きで「啓発拝聴」一方の今までの「安全・安心行政」のあり方の改善についてであります。

年に2～3回は定期的に門真警察との意見交換会を持ち、その内容を議事録も作って公表するようにする事につきましては、一つのあり方として、今後、検討してまいりたいと考えております。

また、「警察対応の所管部署」を定める事につきましては、今後、警察との協議も含め、できるだけ早期に検討してまいりたいと考えており

ます。

次に、日本人みずからの戦争検証をも実行した「門真の偉人」幣原喜重郎の業績の啓発継承についてであります。

まず、幣原喜重郎氏の業績についてであります。幣原喜重郎氏は、1872年（明治5年）、門真一番下村において大変教育熱心であった幣原家の次男として生まれ、門真小学校で学び、わんぱくな少年時代を過ごした後、当時、国の直轄であった大阪中学校で英語の基礎を身につけ、第三高等中学校を経て、帝国大学に入学されました。

卒業後、外務省に入り、外交官として仁川<sup>じんせん</sup>、ロンドン、釜山<sup>ぷさん</sup>、ワシントンなど世界各地へ赴任の後、51歳にして外務大臣に就任し、「幣原

外交」といわれる平和的な外交を展開されたものでございます。

終戦後の1945年（昭和20年）、73歳で第44代内閣総理大臣に親任、大阪で生まれ育った唯一の総理大臣として、「日本国憲法改正草案要綱」を公表するなど、日本の民主化に尽力した人物でございます。

次に、「大東亜戦争調査会」につきまして、御答弁申し上げます。

幣原平和財団が1955年（昭和30年）に発行した「幣原喜重郎」や大東亜戦争調査会に関する論考によりますと、当該調査会は、「敗戦に関して犯した過ちを繰り返さないこと」を目的とし、「敗戦・戦争の原因と実相の徹底的な調査」のため、幣原喜重郎内閣が1945年（昭和20年）

11月に設置されたものでございます。

本調査会の設置経緯につきましては、戦争責任の調査と追及を求める世論を受け、敗戦原因の調査の必要性を指摘していた幣原内閣総理大臣が、「敗戦ノ原因及実相調査ノ件」として閣議決定し、設置され、総裁には幣原内閣総理大臣自らが就任されたものでございます。また、調査方針として、戦争の起こった原因を世界史的立場に立って究明すること、戦争経過の実情を明確にし、敗戦に導いた真因を追求すること、降伏後の日本がどのような困難に直面し、処理したかを明らかにするなどして、戦争の顛末について正確な歴史的資料を後世に遺し、恒久的な平和日本を建設するため基本的な指標を導き出すものであることとされたところでございます。

しかしながら、連合軍最高司令官の諮問機関である対日理事会において、ソ連代表が戦争の原因調査や戦争扇動者の処罰という任務は極東国際軍事裁判所に属していることや、元軍人などが委員として調査に携わっていることを批判するとともに、委員会の解散を勧告したことなどにより、対日理事会での意見対立の長期化を懸念した GHQ の意向に応じ、日本政府は 1946 年（昭和 21 年）8 月に調査会の廃止を内定し、9 月に廃止されたものでございます。

次に、幣原喜重郎の業績の啓発継承を市が積極的に行なう事が、門真の市民や子ども達に誇りを生み、「門真市を愛する気持ち」をより育み、門真市の品格と魅力向上にも寄与するし、「立憲主義の民主主義国家の主権者」としての自覚の発揚にも寄与する、と私は確信するがどうかについてであります。

郷土の偉人であり、門真市の誇りである元内閣総理大臣幣原喜重郎氏の業績を、子どもからお年寄りまで、広く市民に伝えることは、本市に対する誇りと愛着を持つことができる環境の醸成につながるものであり、かつ、大変重要なことであり、門真市の品格と魅力の向上にも寄与し、また、「立憲主義の民主主義国家の主権者」としての自覚の発揚にも寄与するものと考えております。

次に、早期に、新たに認識された業績の紹介を中心とした講演会などの啓発企画が出来るよう、園部市長の気持ちを示してもらいたいかどうか。せめて年に1回は幣原喜重郎に関連する市民向け行事、例えば「幣原喜重郎平和フェスタ」とか「幣原喜重郎平和憲法祭り」とか「幣原喜重郎の業績展示講演会」など、「平和憲法制定首相のまち＝門真市」を「門真市の魅力」と

して打ち出したりする事が良いと思うが、どうかについてであります。

これまでも、歴史資料館におきましては、2000年（平成12年）に特別展を開催し、同年から常設展として郷土の偉人の生い立ちに焦点をあてた幣原家の足跡を伝えてまいりました。

また、2013年（平成25年）に発行した門真市暮らしの便利帳では、門真が誇る偉人としてその業績を紹介しており、講演会につきましては、2002年（平成14年）に幣原家の方を招き講演会を開催しているところでございます。

今後におきましては、郷土の偉人である幣原喜重郎氏を多くの市民にも知っていただけるよう、業績を伝える新たな取組につきまして、検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。